



子どもの命を助けるために

豊田市立中山小学校 6年 大橋 世奈

私が委員長をしているJRC委員会では、主にエコキャップ集めをしています。そして、集めたエコキャップは、発展途上国のワクチンが必要な子ども達のために使われます。一人でも多くの子どもの命が助かるよう、中山っ子が積極的に協力しています。この活動を通して、中山っ子一人一人が人助けできる学校にしていきたいです。



〈エコキャップを集めよう〉

気づきを深める期間

愛知県立瀬戸北総合高等学校 3年 吉田 鈴華

本校のJRC部では、現在コロナウイルスの影響で活動することはできていませんが、これまでは赤い羽根募金やあしなが学生募金、児童遊園や高齢者施設等でボランティアを行ってきました。学校外での活動は難しいですが、学校内でペットボトルキャップ集めや、できることを探して積極的に取り組んでいます。



〈ハンドベル演奏〉

一言で笑顔あふれる学校へ

名古屋市立東丘小学校 6年 林 優利

東丘小の代表委員会では週に3回の「あいさつ運動」を行っています。今は、元気にあいさつをしてくれる人が大勢います。私たちは、あいさつと笑顔で元気になる人がもっと増えるように日々試行錯誤しています。この秋からは、「おはようございます」以外の言葉がけもして、今よりももっと笑顔あふれる学校を目指していきたいです。



〈笑顔であいさつ東丘〉

次の世代へ

北名古屋市立熊野中学校 3年 佐々木 創悟

我が校の体育館後方の壁には「いじめ撲滅スローガン」が大きく掲げられています。先輩方が、この先ずっといじめが起こらないように考えたものです。それ以来私たちは毎年人権週間にいじめをなくすためにはどうすれば良いのか考えています。いじめのない熊野中学校を次の世代へ引き継ぎます。



〈いじめ撲滅スローガン〉

あいち青少年赤十字

No.130

令和2年11月発行

日本赤十字社愛知県支部
〒461-8561 名古屋東区白旗一丁目50番地
TEL(052) 971-1599 FAX(052) 971-1590
ホームページアドレス http://www.aichi.jrc.or.jp/

人間を救うのは人間だ



Together for humanity

一緒に考えよう
～今わたしたちができることを～

コロナに負けるな宣言

あま市立基寺小学校 6年 橋本 陽葵

児童会で、コロナ感染予防を一人一人が心がけてほしいと思い、「コロナに負けるな宣言」を作りました。宣言を校内放送で呼びかけたり、教室に掲示したりしました。宣言を作ったことで、コロナ予防に進んで取り組む人が増えました。もっとたくさんの人が予防を心がけ、笑顔で学校生活を送られるようにしていきたいです。



〈コロナに負けるな宣言〉

サンフラワー活動を通して

新城市立八名中学校 3年 伊田 青樹

八名中学校では、20年以上前から、サンフラワー活動を続けています。この活動では、全校生徒が一人一鉢の花を育てます。花は、学校行事の会場を彩る役割を果たし、その後、地域の方へ、日ごろの感謝の気持ちを込めて、代表生徒から手渡しでプレゼントされます。これからも、地域との関わりを大切にしたいです。



〈感謝の気持ちを花に込めて〉

ぼくたちができること

岡崎市立城南小学校 6年 藤井 基嗣

今年は、ぼくたちにとって当たり前前の生活がなくなりました。生活の仕方が変わってしまって、不安や大変さを感じるときもあります。ぼくたち保健委員にできることは何か。差別がないことを願ってぼくたちはビデオを作りました。全校で思いやりをもって、友達の気持ちに気づき、どうしたらよいかを考えてコロナウイルスに向き合っていきたいです。



〈差別を生まないことを願って〉

生徒のための生徒会

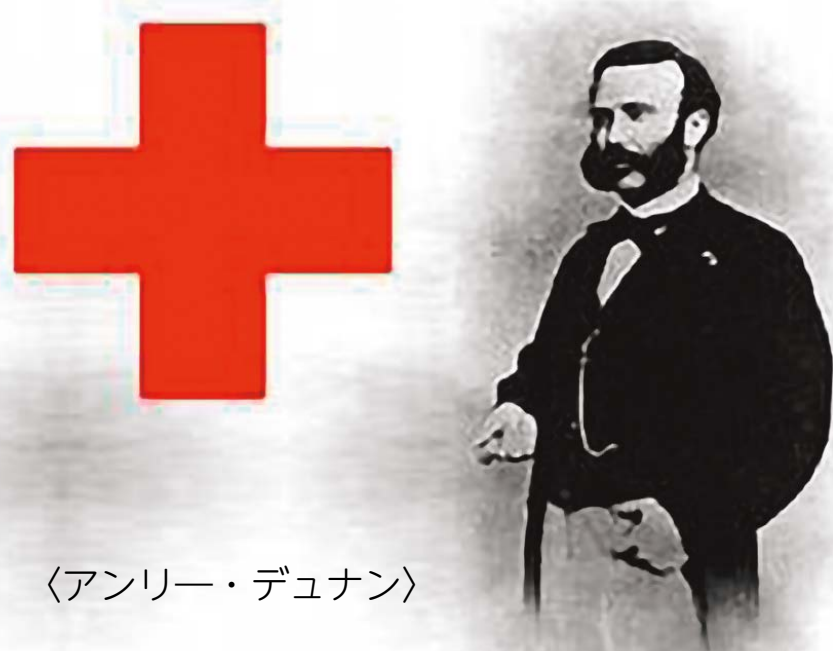
安城市立明祥中学校 3年 杉浦 彩巴

私は「生徒の生徒による生徒のための生徒会」をモットーに生徒主体の学校を目指しています。先日は美化委員会主催の草取りフェスを行いました。学年を解体した縦割りグループで取り組むことで、学年の垣根を越えた絆をよりいっそう深めました。これからも生徒全員が一つとなった絆の強い学校をつくります。



〈「抜け！い草じゃ〜」の様子〉

支部通信



〈アンリー・デュナン〉

赤十字って何??

赤十字の創始者 アンリー・デュナン

「傷ついた兵士は、もはや兵士ではない。人間である。人間同士としてその尊い命を救わなければならない」戦場の惨状に衝撃を受け、国際的な救護団体の必要性を訴えた赤十字の創始者アンリー・デュナン。彼の提唱により、1864年ヨーロッパ12か国により国際赤十字組織が発足したのです。アンリー・デュナンがスイス人であったことから、スイスに敬意を表してスイスの国旗の赤と白を反対にした「白地に赤い十字」をマークとしたのです。

そして、日本赤十字社の前身である博愛社が創立されたのは1877年（明治10年）でした。その設立に心血を注いだのが、佐野常民と大給恒です。アンリー・デュナン同様、二人は、西南戦

争で負傷した兵士を敵味方の区別なく救護することを強く願い、設立に向けて奔走したのです。

日本赤十字社の創始者 大給 恒

大給恒は、旧姓を松平乗謨といい、三河の国奥殿藩（現在の愛知県岡崎市）の藩主でした。今なお残っている奥殿陣屋には、大給恒の業績を示す資料が展示され、彼の生き方・考え方を知ることができます。皆さんの住んでいる愛知県に深くかわっていると知ると、赤十字がより身近に感じられるのではないのでしょうか。



〈大給 恒〉

その後、博愛社から日本赤十字社と名前を変え、活動の場を戦時の兵士を助けることから平時の災害救護活動や青少年赤十字などに拡大していったのです。そして、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも人間の命と健康、尊厳を守る」という使命を掲げ、ボランティアと寄付によって支えられる国内最大の人道支援団体となったのです。日本赤十字社は現在、9つの事業を柱として、活動をしています。



〈災害発生直後、被害状況の調査にあたる職員（2011年3月14日、岩手県大槌町）〉

日本赤十字社の活動

■国内災害救護

災害現場での医療救護や救援物資の配布。



赤十字活動は、みなさまからいただいた活動資金で支えられています。

■救急法等の講習

病気がけの予防ととっさの時の手当など、健康で安全な生活。



■国際活動

世界中の紛争や災害の被災者に支援の手を。



■医療事業

地域医療への貢献。災害などに備えて医師、看護師を訓練。



■血液事業

あなただけの温かい贈りもの、献血。



■看護師等養成事業

救護や医療にあたる看護師などを養成。



■赤十字ボランティア

赤十字を支え合うボランティア。助け合う心。



■青少年赤十字

学校を通じてのちと健康を大切にする意識や思いやりの心を育成。



■社会福祉事業

子どもや高齢者、障害のある人のための社会福祉施設の運営。

